

1 ごみ処理の概要

ごみ排出の状況:ごみ総排出量は微減、1人1日当たりのごみ排出量は横ばい。

ごみ総排出量 378,195 トン(前年度 384,489 トン) [1.6% 減]
 1人1日当たりのごみ排出量 961 グラム(前年度 968 グラム) [7グラム 減]

ごみ処理の状況:

総資源化量(再生利用量) 65,258 トン(前年度 65,735 トン) [0.7% 減]
 中間処理による再生利用量 33,414 トン(前年度 33,848 トン) [1.3% 減]
 最終処分量 47,276 トン(前年度 48,511 トン) [2.5% 減]
 リサイクル率 17.2%(前年度 17.1% [0.1ポイント増])

最終処分場の状況:残余容量は、減少傾向。

残余容量 約 844 千m³(前年度 約 880 千m³) [4.1% 減]

(1) ごみの排出量

区分	P27ロー図 との対応	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
人口(人)	-	1,112,034	1,102,870	1,095,673	1,087,733	1,078,200
計画収集人口	-	1,112,034	1,102,870	1,095,673	1,087,733	1,078,200
自家処理人口	-	0	0	0	0	0
ごみ総排出量(t)	-	387,986	397,248	393,678	384,489	378,195
計画収集量	A	332,865	331,414	333,497	324,509	319,643
直接搬入量	B	52,775	62,752	56,981	58,394	57,024
集団回収量	C	2,346	3,082	3,200	1,586	1,528
1人1日あたりのごみ排出量(g)	-	956	987	982	968	961
最終処分量(t)	M	43,930	42,991	45,939	48,511	47,276
直接最終処分量	D	2,418	1,701	2,762	2,869	3,275
焼却残さの埋立量	K	35,052	34,513	35,802	37,360	37,177
中間処理残さの埋立量	H	6,460	6,777	7,375	8,282	6,824
中間処理量(t)	-	363,962	374,237	371,902	359,448	352,107
焼却処理量	J	304,369	312,897	311,775	301,228	295,908
直接焼却量	E	290,617	298,444	297,110	291,962	287,110
中間処理残さの焼却量	I	13,752	14,453	14,665	9,266	8,798
焼却以外の中間処理量	F	59,593	61,340	60,127	58,220	56,199
粗大ごみ処理施設の処理量	-	3,273	3,562	3,654	4,370	3,925
その他資源化等を行う施設の処理量	-	41,325	43,242	41,643	45,004	43,510
その他施設の処理量(埋立のための破砕・減容化等)	-	14,995	14,536	14,830	8,846	8,764
総資源化量(t)	N	66,116	62,594	65,145	65,735	65,258
市町村による資源化量	-	63,770	59,512	61,945	64,149	63,730
中間処理後の再生利用量	L	33,053	31,590	31,845	33,848	33,414
直接資源化量	G	30,717	27,922	30,100	30,301	30,316
集団回収量	C	2,346	3,082	3,200	1,586	1,528
自家処理量(t)	-	213	0	0	0	0
リサイクル率(%)	-	17.1%	15.9%	16.6%	17.1%	17.2%

- (注)
- ・ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量
 - ・人口は各年度における10月1日現在の住民基本台帳人口。
 - ・集団回収量とは、市町村による用具の貸出や補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量のこと。
 - ・1人1日あたりのごみ排出量(g) = ごみ総排出量(t) ÷ 計画処理収集人口 ÷ 365日又は366日 × 10⁶
 - ・リサイクル率 = (市町村資源化量 + 集団回収量) ÷ (ごみ処理量 + 集団回収量) × 100
 - ・ごみ処理量 = 直接焼却量 + 焼却以外の中間処理量 + 直接最終処分量 + 直接資源化量

① ごみ処理のフロー

一般廃棄物は、市町村等により計画的に収集されるものと、住民から市町村等の施設に直接持ち込まれるものがあります。これらの一般廃棄物の処理は、そのまま直接資源として利用されるもの、焼却や破碎などの中間処理を経て資源化されるもの、中間処理を経て最終処分されるもの、収集後そのまま最終処分されるものに分かれます。それぞれの処理量は次のとおりです。

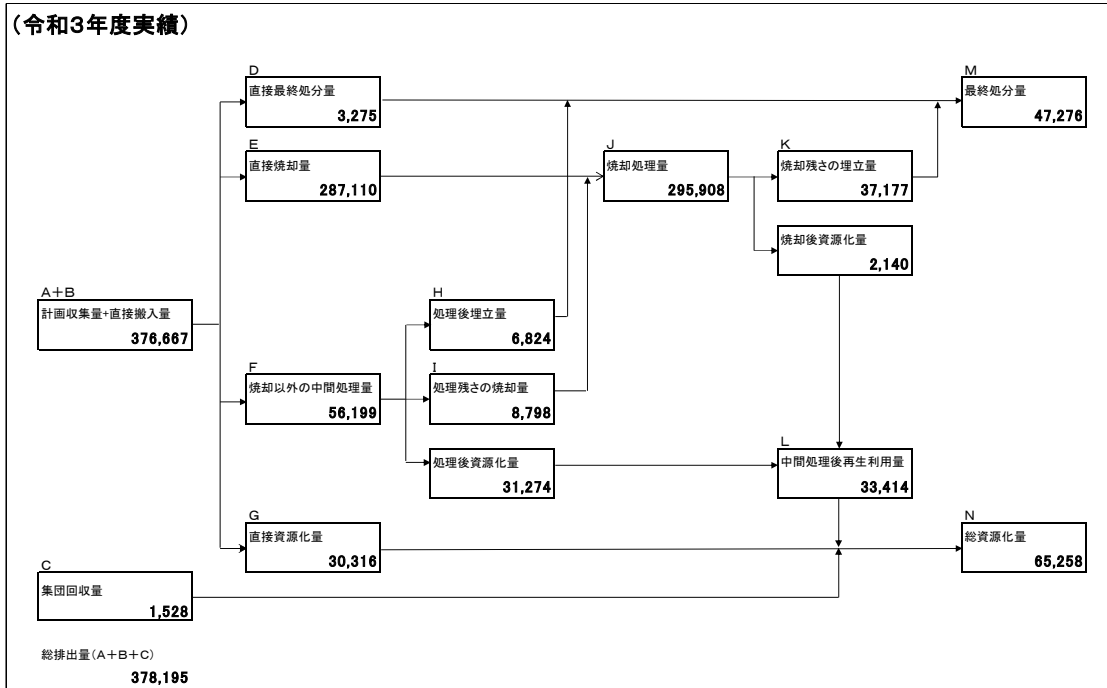


図1 ごみ処理のフロー

② ごみの排出量

令和3年度のごみ総排出量は378,195ト、前年度と比較すると約1.6%減少しています。

1人1日あたりでの排出量は961gで、前年度から7g減少し、全国値(890g)と比較すると、71g多い値となっています。

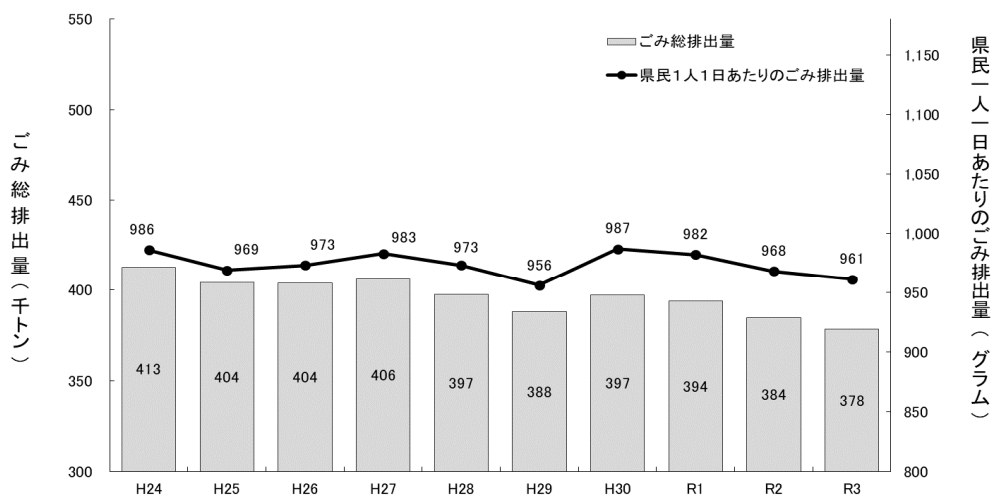


図2 ごみ総排出量と県民1人1日あたりのごみ排出量の推移

③ 地区別ごみ排出状況

令和3年度の県内7地区毎の1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率は次のとおりです。

ごみ排出量が最も少ない地区は西諸県地域の522g/人・日で、最も多いのは日南・串間地域の1,255g/人・日です。リサイクル率については、西諸県地区が最も高く26.8%、最も低いのは、延岡・西臼杵地区の13.3%となっています。

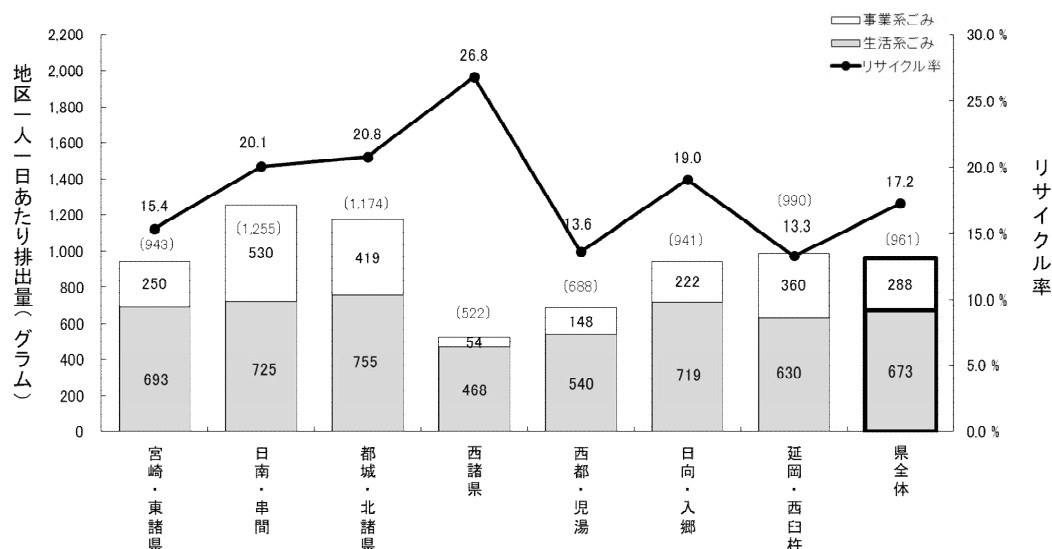


図 3 地区別の1人1日あたりのごみ排出量及びリサイクル率

(2) ごみ処理による減量化とリサイクル

令和3年度の市町村等による資源化量と住民団体等による集団回収量を合わせた総資源化量は65,258トﾝで、前年度と比較すると約0.7%減少しました。

リサイクル率は、前年度と比較して0.1ポイント上昇し17.2%となっています。本県のリサイクル率は、全国値(19.9%)と比較すると2.7ポイント低くなっています。

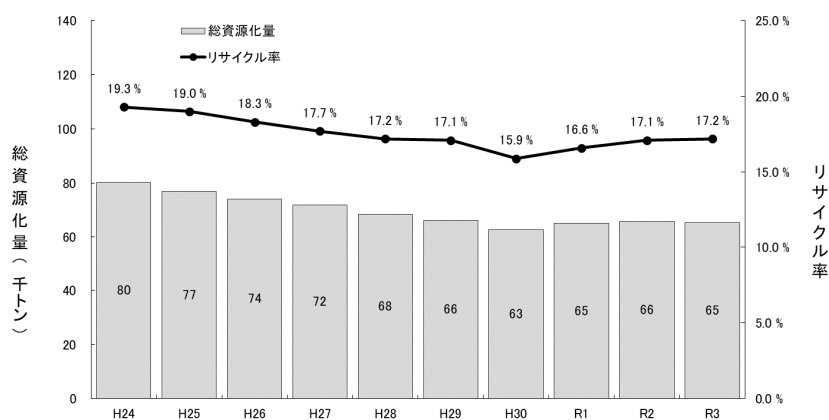


図 4 総資源化量とリサイクル率の推移

(3) 最終処分状況

令和3年度の最終処分量は47,276トﾝで、前年度と比較すると約2.5%(1,235トﾝ)減少しました。

市町村及び一部事務組合等が設置し、令和3年度末現在埋立を行っている最終処分場は14施設で、全ての施設の残余容量の合計は約840千m³です。仮に、令和3年度の最終処分量が今後続くとした場合、最終処分の残余年数は、約14.5年となります。(埋立ごみ比重を0.8163とした場合)

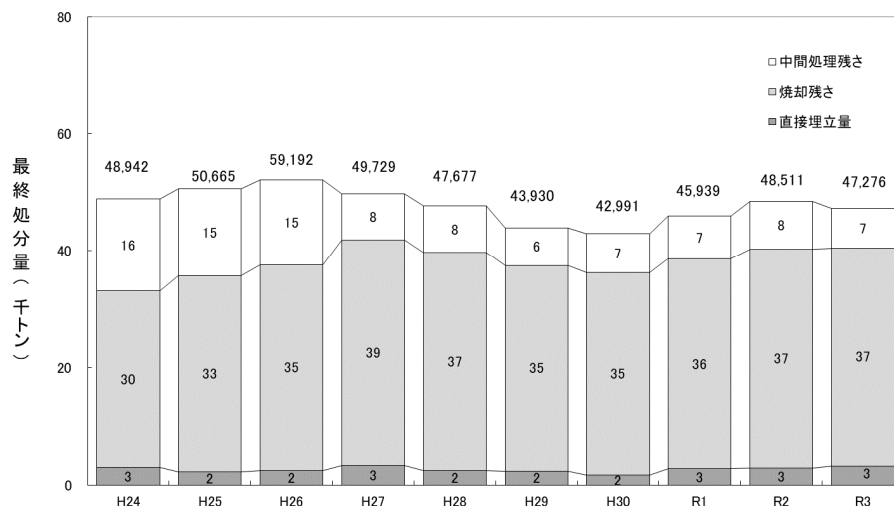


図 5 最終処分量の推移

(4) ごみ処理事業経費

令和3年度の市町村及び一部事務組合等のごみ処りに要する経費(建設改良費を除く)は約133億円で、直近10年間ではほぼ横ばいとなっています。県民一人あたりに換算すると12,334円、ごみ1トﾝあたりに換算すると約35,283円となります。

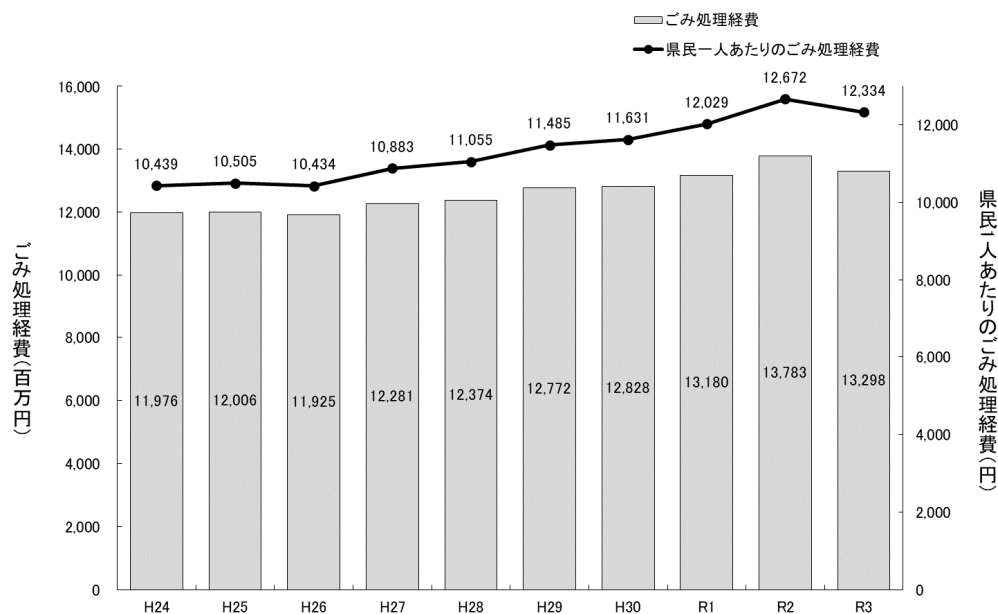


図 6 市町村等のごみ処理事業経費(建設改良費を除く)と県民一人あたりのごみ処理事業経費の推移